

第6学年 社会科授業案

天伯小学校 後藤 慶治

1 単元名 「天伯小学校誕生 ～戦後の天伯校区～」

2 単元目標

- ・ 日本の終戦から東京オリンピックまでの日本や天伯校区の移り変わりの様子を、聞き取り調査や体験活動などを通して、意欲的に調べようとする。(関心・意欲・態度)
- ・ 終戦後、天伯校区に移り住んだ人々が、苦しい開拓生活の中で小学校を作りあげようと努力したことを知ることで、よりよい生活を目指して懸命に生きていた姿を考えることができる。(思考・判断)
- ・ 文献資料や聞き取り調査、体験活動などから、小学校開校までの様子について調べたことをまとめ、説明することができる。(技能・表現)
- ・ 戦後の急激な経済成長の中で、さまざまな社会変革に対応しながら、人々が懸命に生活を営んできたことを知ることができる。(知識・理解)

3 単元について

(1) 児童観

本学級は男子16名、女子13名、計29名のクラスである。子どもたちは、6年生になって初めて歴史学習に取り組み、特に歴史に興味のある男子は、学習に積極的である。しかし、歴史学習は、どうしても暗記をすればよいというイメージをもってしまいうこともあるので、「学習課題の設定⇒予想⇒一人調べ⇒意見の交流」というサイクルで学習を進めるようにし、子供達が主体的に歴史学習に取り組めるよう実践を進めてきた。また、日本の歴史を学習しながら、その時代に自分たちが住んでいる天伯校区の様子はどうかだったかということに常に意識させるようにし、日本の歴史と天伯校区の歴史をリンクさせてきた。

本学級の児童は、4月当初に行った道徳の授業の結果から自分たちが通っている現在の小学校や住んでいる校区について、強い愛情の念を抱いているとはいえない。どちらかというと、商店が集中している隣の幸校区の方が天伯校区より住みやすく便利だと考えている。また、施設の整っている比較的新しい幸小学校に憧れを抱いている傾向が強い。天伯小学校についての子どもたちのイメージは「古くて、汚い」というものが多い。かろうじて、2年前にできた新しい正門くらいが自慢できる物の一つとして感じているようだ。子どもたちは、有形のものでしか「誇り」を感じていない現状が分かる。そこで、天伯小学校ができた経緯を知り、そこにこめられている多くの人の思いが分かる単元を構成することで、自分たちが通っている学校を愛し、誇りに思う気持ちをもつ子どもを育てたい。

(2) 教材観

○東京オリンピック

1964年に開催された東京オリンピックは、日本が太平洋戦争の敗北から復興したあかしとなる象徴的な出来事であり、民主国家としての日本を世界にアピールする絶好の機会でもあった。東京オリンピックは、日本初のオリンピックであると同時に、アジア初のオリンピックでもあった。歴史的に見ると、第二次世界大戦前にも夏季オリンピックの招致に成功したほどの国力を誇った日本が、第二次世界大戦後の荒廃から19年を経て立ち直り、復興を遂げた後に、取り組む国家的イベントであり、再び主要先進国として国際社会に復帰するシンボリックな意味を持った。また、1940年代から1960年代にかけてヨーロッパ諸国による植民地支配を破り、次々と独立を成し遂げたアジアやアフリカ諸国による初出場が相次ぎ、過去最高の出場国数となった。

東京オリンピック開催を契機に競技施設や日本国内の交通網の整備に多額の建設投資が行われ、競技や施設を見る旅行需要が喚起され、カラー放送を見るためのテレビ購入といった消費が飛躍的に増えたため、日本経済に「オリンピック景気」といわれる好景気をもたらした。テレビ購入者が増えたため「テレビ番組」の視聴者も多くなった。

東京オリンピックは、予算として国立競技場をはじめとした施設整備に約164億円、大会運営費94億円、選手強化費用23億円を計上した国家プロジェクトとなった。

○戦後の天伯校区

太平洋戦争中、空襲等で国土は荒れてしまい、食糧生産よりも軍事産業が優先となっていた上、外地にいた軍人や一般の人々が次々と引き揚げてきたため、日本はたちまち食糧不足に陥った。そこで、昭和20年11月に日本政府は国家事業として、開拓増産隊を募集し、食糧生産の向上に力を入れるようになった。

天伯校区は、明治時代より昭和20年の終戦まで、陸軍の演習場として使用された。終戦後、荒れたままの3000haもの土地が天伯や高師の地に残っていたため、ここが開拓の候補地となり、元軍人や戦災にあった人、外地か

らの引揚者、市内や県外からの希望者などが多く集まった。

しかし、天伯の地は長い間、演習場として使われていたり、酸性が強く養分をほとんど含んでいない赤土だったりしたため、開拓当初はほとんど収穫がなく、多くの人々が開拓をあきらめて、他の土地に去っていった。

○天伯小学校

天伯校区はもともと人口が少なく、高師小学校の校区であった。しかし、天伯の地から高師小学校までは、道のりが長く、特に低学年の児童にとっては、日々の通学は、とてもつらいものであった。そこで、天伯校区の人々の願いにより、高師小学校の分校として、天伯小学校の基礎が作られることになった。分校は、戦後、開拓が軌道にのっていないかった苦しい時期に校区の人々の熱い熱意によって作られた。人々は日々の生活もままならない中、自分たちの学校を作るということで、整地作業にも喜んで参加し、昭和25年に現在の位置に高師小学校天伯分校が作られた。

ところが、分校に通えたのは、4年生未満の児童のみで、4年生以上の児童は、高師小学校へそのまま通っていた。そこで、分校を天伯小学校として、高師小学校から独立させようとする強い願いが人々から出るようになった。校区の人々は何度も話をしたり、教育委員会に陳情を繰り返したりして、分校が天伯小学校として、昭和30年に開校することになった。しかし、校区の人々の開校への願いが一枚岩ではないため、話し合いがまとまらず、最終的には投票を行い、2票差で開校が決定した。開校への願いがまとまらなかったのは、天伯自体が、開拓の新興地域で、そこに住んでいた人々は着の身着のまま、毎日の食事にもおぼつかない有様であったことから、高師や二川地域の人々からは見下されていたこともあった。天伯に住んでいた人の中にはそのことにコンプレックスをもち、新たな校区を作るよりも今までのように高師小に通っていた方がよいと考えた人も多かった。

子供達には、天伯小学校が作られた経緯を知ることで、自分たちが通っている学校は多くの人の努力と強い願いがこめられていたことに気づいてほしい。そして、そのことから小学校に愛着を持つ児童を育成したいと考えた。

○鳴澤春男さん

鳴澤春男さんは、現在71歳で天伯山神社の氏子総代を務められている。鳴澤さんは、昭和20年、小学校3年生の時に愛知県春日井市から豊橋に一家そろって移住をされ、そこから大清水の開拓訓練所に入り、植田小学校へ通った。昭和21年からは天伯の地に開拓に入られ、高師小学校へ通われた。当時の天伯は、開拓がまだ軌道にのっていないこともあり、生活が苦しい家庭が多く、学校へ持って行く弁当にさえ事足りない有様であった。鳴澤さん自身も、高師に住む同級生が昼食時にお弁当を食べているのを片目に、空腹をこらえていたそうである。また、履く物も無く、裸足で片道1時間以上もかけて、通学をしていた友達もいたということである。

子供達には、鳴澤さんのお話を聞くことで、書物には載っていない当時の生の実態を知り、天伯校区に住む子供達が大変な苦勞をして、学校に通っていたことをつかませたい。また、今の自分たちが恵まれた環境で学習をできるのは、当時の子供たちの苦勞の上に成り立っているという事実を押さえさせたい。

(3) 指導観

単元の導入として、戦争中の東京と東京オリンピックが開催された時期の東京の写真を比較することで、戦後からわずか19年ほど大きく発展したことを子どもたちにとらえさせたい。また、視覚だけでなく、東京オリンピックに今のお金に換算して、約5000億円をかけたという事実を子どもたちにつけ、戦後復興の様子をお金という側面でもとらえさせ、どうして、何もないような状態から短期間でそれほどお金をかけることができるようになったか疑問をもたせたい。

そして、東京オリンピックをきっかけとして、日本の戦後を学習する中で、その当時の天伯校区はどうであったかということを考えさせる。子どもたちには4年生での郷土の学習を思い出させる中で、天伯の開拓が始まった経緯を日本全体の歴史とリンクさせてとらえさせたい。また、天伯の開拓が非常に困難であり、多くの先人の努力でこの校区が成り立ったことをもう一度確認させたい。

天伯校区の一人調べにおいては、学校に蔵書がたくさんある豊橋市制施行100周年記念誌「校区のあゆみ 天伯」や郷土誌「天伯」を積極的に活用し、円滑な調べができるようにさせたい。また、開拓当時のことを知る鳴澤春男氏をお呼びし、当時の天伯校区の子どもたちに焦点を当てて、お話をさせていただくことで、開拓当時の小学生と今の自分たちとの比較ができるのではないかと考えた。そして、高師小学校へ実際に歩いて通学する体験をすることで、当時の小学生の苦勞を子どもたちに実感させたい。そのことで、天伯小学校開校までの校区の人々の願いを知り、子どもたちに校区の人の天伯小学校や天伯校区への思いを感じ取らせ、学校や校区に対する無形の「誇り」に思う気持ちをもたせたい。

4 単元構想（21時間完了／社会16時間、総合5時間）

東京大空襲後と東京オリンピックの頃の2枚の写真を比べよう ①（発表）

【東京大空襲後】

- ・ここはどこなんだろう。
- ・建物が全然ないね。
- ・空襲で焼けた後かな。

【東京オリンピックの頃】

- ・タワーが建っているよ。東京タワーかな。
- ・大きな工場があるね。
- ・きれいな競技場にたくさん人がいるね。オリンピックかな。

同じ街なのに、雰囲気が全然違うね。どうしてかな？



当時の東京の様子を調べてみよう ②（一人調べ・発表）

【東京大空襲後】

- ・空襲で、街が焼けてしまった。
- ・10万人以上の人々が亡くなったり、行方不明になったりしたんだね。
- ・今の東京と全然違うね。
- ・何にもなくなっているね。

【東京オリンピックの頃】

- ・街ができて、大きな工場もあるね。
- ・駅前にはたくさんの人がいるね。
- ・きれいな競技場にたくさんの人がいるね。
- ・東京でオリンピックがあったんだね。
- ・オリンピックに、約280億円ものお金をかけたんだね。今のお金にすると何千億ものお金になるんだよね。そんなお金どこにあったんだろう。

全然、街の様子が違うよね。どうして、19年間で街の様子がこんなに変わったのだろう。



19年でどうして東京（日本）はこんなに変わったのかな。③（一人調べ・祖父母への聞き取り・発表）

【政治】

- ・日本国憲法ができて、今のようない民主的な国になった。
- ・サンフランシスコ平和条約で、世界から独立を認められた。
- ・アメリカと仲良くなった。（日米安全保障条約）

【産業】

- ・大きな工場が作られるようになった。
- ・当時の人々は休むひまを惜しんで働いた。
- ・今みたいに土曜日は休みじゃなかった。

【農業】

- ・農地解放で、小作農が自分の土地を持てるようになった。
- ・工業化の影響で、農業をやっている人が減っていった。

【人々の生活】

- ・電化製品が普及した。
- ・新幹線や高速道路がつくられた。
- ・国民総生産が世界第2位になった。

東京（日本）は19年で大きく変わったんだね。私たちの住んでいる天伯はどうだったのかな。



当時の天伯の様子を調べよう④（一人調べ・祖父母や鳴澤さんからの聞き取り・発表）

＜郷土誌などを使った一人調べや祖父母からの聞き取り＞

- ・日本のあちこちから、開拓をしに人々が集まってきたんだね。
- ・天伯は土地の様子がよくなく、作物がたくさん取れなかったの、苦しい生活をしてたんだね。
- ・多くの人々が開拓をあきらめて、天伯を離れていったんだね。
- ・天伯は水が少なく、生活をしたり、農業をしたりするのはとても苦労したそうだよ。
- ・戦争が終わって、何もかも無くなってしまっ、他の地域の人たちも天伯の人たちと同じようにとても苦労していたんだろうね。

＜鳴澤さんからの聞き取り＞

- ・当時の天伯には学校が無かったんだね。
- ・遠い高師小学校へ4年生以上の天伯の子どもたちは通っていたんだね。雨の日は大変だっただろうね。
- ・天伯の子たちは、高師小の子から馬鹿にされていたんだね。

学校に通うにも、鳴澤さんたちは大変だったんだね

4年生時の学習を想起させたり、郷土誌「天伯」や校区史「天伯」を利用したりして、天伯校区の歩みをつかませやすくする。

また、文献だけでなく、祖父母や校区の鳴澤さんへの聞き取りなど生の声も積極的に取り入れるように働きかけ、当時の人々の様子を身近に感じ取れるようにする。

また、天伯校区の歴史を振り返りながら、日本全体の歴史とも常にリンクさせて、まとめるように意識を持たせる。

鳴澤さんからの話は幼少期の話と小学校の話題を中心としてもらい、子どもたちの意識を小学校へ向けさせる。



当時の鳴澤さんの苦労を体験しよう<総合⑤> (体験・話し合い)

<高師小学校への通学体験>

- ・ こんな遠い所まで、毎日通うなんて、大変。
- ・ 今は、道はきれいだから、昔の方が通うのにとっても苦労しただろうね。
- ・ 今は学校が近くにあるから、とても楽だね。昔の子どもは本当に大変だったんだね。
- ・ 近くに学校があるといいよね。

高師小学校まで、実際に荷物を背負って、通学させることで、当時の天伯校区に住んでいた子どもたちの苦労を実感させる。

高師小学校へ通うのは、大変だったね。天伯小学校へ通えたのはいつ頃からかな



天伯小学校ができた様子を調べよう② (一人調べ・発表)

- ・ 子どもたちが高師小学校まで通うのが大変だから、天伯に高師小学校の分校を作るようになった。
- ・ 分校を作るために、大人たちは一生懸命、整地作業をしたんだね。
- ・ 分校に行けない4年生以上の子どもたちのために、分校を天伯小学校として独立させようという運動が起きたみたいだね。
- ・ 校区の人々が話し合いをして投票をした結果、わずか2票差で学校を作ることが決まったんだね。
- ・ 天伯小学校を作るのに反対した人がたくさんいたんだね。

どうして、天伯小学校を作るのに反対した人がたくさんいたんだろう



天伯小学校を作るのに反対する人がたくさんいたのはなぜかな② (鳴澤さんへの聞き取り・一人調べ・発表)

- ・ 天伯に住んでいた人たちは、開拓が進まず、貧しい暮らしをしていたんだね。
- ・ 鳴澤さんの話だと天伯は貧しかったから、高師の人たちから馬鹿にされていたんだね。
- ・ 天伯は馬鹿にされていたから、その天伯に学校を作るくらいなら、そのまま高師小学校に通っていた方がいいと思っていた人が多かったんだね。
- ・ 天伯に住んでいたことは、恥ずかしかったんだね。

天伯校区に住んでいた人たちは、苦しい生活をしていたことを再確認させ、学校まで作るゆとりがなかったことを押さえさせる。

天伯小学校を作ることに反対した人たちの気持ちが分かったね。でも、その人たちを説得してでも学校をつくりたかったんだね。



どうしてあんな大変な思いまでして天伯小学校を作ろうと思ったのかな② (一人調べ・発表) (本時2/2)

- ・ 自分の子どもが高師小学校まで通うのは大変だからだと思う。実際に歩いてみて、あんな遠い所まで毎日歩いていかなければならないと思うといやだ。
- ・ お父さんが言っていたけど、やっぱり卒業した学校が近くにあるというのは、良いって言ってたよ。
- ・ 将来の子どもたちのため、その当時は大変だったと思うけど、がんばってくれたんだと思うよ。
- ・ 校区史に「父兄の喜びが大きかった」と書かれてあったから、子どもよりも大人の方がうれしかったんだね。



- ・ 僕たちが通っている天伯小学校には、校区の人のいろいろな思いがつまっているんだね。
- ・ 私たちは今、苦労もせずに学校に通っているけど、昔の子どもたちは大変な思いをしていたんだね。天伯小学校があることに感謝したいね。
- ・ 天伯小学校は周りの小学校と比べると、古い感じがしたけど、大切にしたいと思った。
- ・ 僕のお父さんは、天伯小学校を卒業したけど、今でも大切な存在だって言っているよ。

私たちの天伯小学校をこれからもずっと大切にしたい！！

5 本時の指導

(1) 本時の目標

- ・ 自分の思いをすすんで発表することができる。
- ・ 小学校建設に尽力した当時の天伯校区の人々の思いを、戦後の開拓の事実やゲストティーチャーの鳴澤さんの話、教師が与えた資料などから考えることができる。

(2) 準備

児童・・・ノート

(3) 学習過程

時間	予想される学習活動	※教師の支援 ◎評価
	どうして天伯の人たちは、あんな大変な時に天伯小学校を作ろうと思ったのかな ＜大変な時＞ ◎生活が苦しい。 →子どもたちは、学校に昼食を持ってこられない →生活が苦しく病気になる人もいた →開拓をあきらめて、やめる人が半分近くいた ◎ 校区の中に開校に反対する人がたくさんいた ※「大変な時」とは、どんな時であったか、今までの学習を振り返らせ、確認をする。 ※生活が苦しいことについては、具体的にどのような様子であったか確認することで、天伯小学校を作ろうとした時期の天伯校区の様子を振り返らせる。	
	【保護者】 ・ 自分の子どもが高師小学校まで通うのはとても心配。(資料) ・ 天伯は高師の人たちから馬鹿にされていたから、自分たちの校区を作ったかったんだろね。(聞き取り) ・ 雨の日はどうやって通わせればよいか、困ったみたいだね。近くに学校がほしいと思ったんだね。(資料) 【子ども】 ・ 実際に歩いてみて、あんな遠い所まで毎日歩いていかなければならないと思うといやだ。(体験) ・ 毎日あの距離を歩いて学校へ行かないといけないうと思うとうんざりする。(体験) ・ 自分たちだけ、お昼ごはんが食べられないのは、つらかっただろうね。高師小学校へ行きたくなかったと思うよ。(聞き取り) 【校区の人】 ・ お父さんが、やっぱり卒業した学校が近くにあるというのは、いいって言ってたよ。(聞き取り) ・ 2票差で学校を作るのが決まったってことは、学校を作るのに反対の人がたくさんいたんだね。みんなを納得させるのは難しいね。(資料) ・ 反対の人もたくさんいたけど、やっぱり自分たちの学校がほしかったんだね。(資料) ※ 根拠となるものをはっきりさせて発言させ、意見に説得力を持たせる。 ※ 様々な事実から、当時の人たちの思いにまで、せまらせたい。 ※ なかなか自分の意見が言えないA子には、事前に朱書きによる励ましをしたり、意図的な指名をしたりして、自分の意見を伝える場をつくりたい。 ◎ 当時の人々が大変な思いや苦勞をして天伯小学校建設に取り組んだことを考えることができたか。(発表・ノート)	
30	たくさんの人の思いがこもったこの天伯小学校に対して、みんなはどんな思いを持ったかな。 ・ 食べる物も無い中で、昔の校区の人たちは学校を作るために一生けんめい努力してくれたんだね。 ・ 天伯小学校には、当時の校区の人の思いがたくさんつまっているんだね。 ・ 昔の人が努力をして作った天伯小学校を私たちは大切にしたいね。 ・ 天伯小学校って古い学校ってイメージがあったけど、他の小学校にはないすばらしさが分かったよ。 ・ 天伯小学校を誇りに思いたいね。 ※学習前の学校に対する意識と比較させたり、今までの学習を振り返らせたりして、自分たちが通っている天伯小学校に対する思いをまとめさせたい。	
45	◎学習課題に対する自分の思いをまとめることができたか。(発表、ノート)	

(4) 評価

- ・ 自分の意見を、進んで発表することができたか。(観察・発表)
- ・ 天伯小学校に対して、学習したことをふまえて自分なりの思いを持つことができたか。(ノート・発表)